



★都農小学校・都農中学校
 坂を上った上に、都農中学校、小学校があった。小学校付近の歩道は狭く、自転車が通る車道も狭かったため、自転車と歩行者がぶつかる危険性がある。交通量も多いため、小学生は車にも気を付けながら登校しなければいけない。また、都農小学校は重要な避難場所となっている。都農小学校は全校生徒208人、都農中学校は250人であり、10年前から100人以上減少しており、都農町での少子高齢化が深刻となっていることを示している。



●都農神社
 都農町には数多くの寺や神社があり、中でも都農神社は広大な敷地と歴史を持つ。鎮静の森に囲まれた境内はパワースポットとして親しまれている。



●太陽光
 一面が畑や田んぼであるため、太陽光の光が遮られることなく直面していた。都農町では平野が多く、太陽光がついた家が多かった。晴れの日であれば、エネルギーをたくさん貯めることができそうであった。



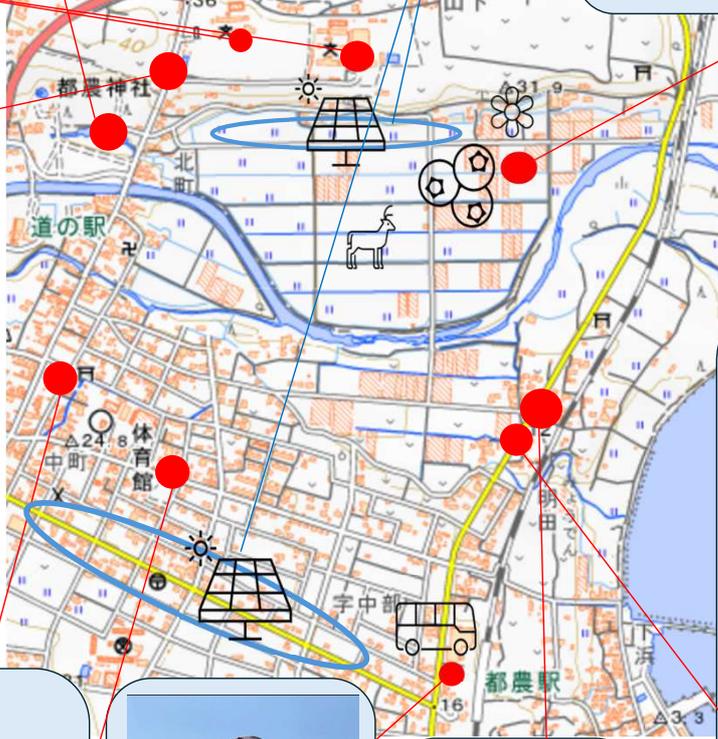
★電柱の海拔表示
 都農町は南海トラフ巨大地震の津波の影響が大きいと想定され(最大15m)、同様の標識が多く設置されていた。写真の標識で、標高が高いことが理由かもしれないが、津波避難場所が書かれていないのが気になった。



トマト栽培をするために必要な燃料の入ったタンクがビニールハウスのとなりたくさん設置されていた。



★●都農横断歩道橋
 この都農横断歩道橋は、都農町が管理する唯一の横断歩道橋である。都農小学校の通学路に指定されており、毎日多数の児童が利用しているが、設置から47年を経過し、老朽化による安全性の確保が課題となっている。そこで都農町では、5年に1回定期検査を行うようにした。この歩道橋はらせん階段が特徴的である。階段の手すりには「都農横断歩道橋一般国道10号線」という文字があり、かつて国道だった名残がある。この歩道橋からは、田んぼ畑を眺めることができる。



●田畑とビニールハウス
 田畑とビニールハウスの側面には、透き通った冷たい水が流れる水路が続いていた。ビニールハウスで作業していた方にお話を伺ったところ、この水路の水を農業に利用しているとおっしゃっていた。また、田んぼの中に鹿や鳥も見られた。都農町では町が推しているトマトの生産が盛んに行われており、こちら側のビニールハウスでは4兆個のトマトを作っている。ほぼトマトが占めているが、米やスイートピーなどの花の栽培も行われている。私たちが訪れた5月下旬には、トマトの収穫を終えており、水田化することで土を再利用している。



●たぶのくち大橋
 たぶのくち大橋は、都農町の道に架かる橋で、地域の交通や産業にとって欠かせないものである。橋の下に流れる「都農川」は、川幅が広く、流れが緩やかであった。川には、三角形の消波ブロックが設置されており、洪水時に川岸や川底が崩れないようになっている。また、波の力を弱めて、河川の被害を軽減する役割もあると考える。



●スクールゾーン
 小学校と中学校につながる道のため、平日の通学時間(7:15~7:45)の車両の通行が禁止されていた。写真の標識は劣化で非常に見にくくなっているが、近くの道路沿いに車両通行禁止の時間帯の記載された新しい看板が立っていた。



●コミュニティバス
 都農町の進学路線及び生活路線確保のために町内を巡回している都農町独自のコミュニティバス。県の中心から離れており、交通手段が限られている町民にとって、重要な生活基盤になっていると考えられる。



謎の鉄塔
 何に使われているのかよく分からなかった。



●都農町役場周辺
 都農町役場、都農町民体育館、中央公民館、都農町商工会館が近くに集まっていた。役場内にある都農町自衛防推進協議会の入口には、かつて都農町で大流行した家畜疫病を防止するために消毒マットで消毒をしてから入ってくださいという内容の張り紙があった。役場、公民館、体育館、神社に囲まれたところに広々とした駐車場があった。土曜日は都農町役場が定休日であったためか、駐車場はガラガラであった。休日はこの駐車場を利用して朝市などのイベントを開催できるのではないかと考えた。



●都農町自動販売機
 たぶのくち大橋から都農町に向かう途中に、とある自動販売機を発見した。この自動販売機の売上の一部は都農町観光協会の活動資金に活用される。自動販売機の側面には、都農町のマスコットキャラクターである「つのびよん」や観光スポットが描かれており、取り出し口の上には地域の特産品や観光スポットを紹介するマップもついていた。

【感想】
 今回の都農町での実習を終えて、県の中心から離れている都農町でも、独自のコミュニティや強みを作り上げるために、バスや観光スポット、農業など都農町だからこそできることに力を入れていると感じた。川崎太陽
 ビニールハウスで作業していた農家の人に話を伺ったところ、こちら側の土地ではトマトを育てていることを知った。田畑、ビニールハウスの側面には、ずっと透き通った水路が続いていて、この水はトマトを作るために利用していると聞いて、この水路が都農町のトマトがおいしい理由の一つになっていると考えた。散策していて、一軒家は平屋が多く、高い建物が少ないため、家の屋根に太陽光が設置されていることに気づいた。フィールドワークを通してしか気づけなかった都農町の一面を知ることができ、もっと新しい発見をしてみたいと思った。(徳永さや)
 今回のフィールドワークを通して、都農町の地域の特色をより知ることが出来た。辺り一面に広がる田畑やソーラーパネルは、土地や地域の特性を活かした工夫として印象に残った。たぶのくち大橋や横断歩道橋などのインフラも地域の暮らしを支えており、眺めも綺麗で、自然が密接に関わり合っている地域だと感じた。一方で、公共交通もバス停がほとんど無い点等、課題も見えられた。現地を訪れることで地域の魅力・課題の両方を直接学ぶことが出来、良い経験となった。(児玉楓夏)
 実際に都農町でフィールドワークを行ってみて、インターネットだけでは得づらい情報が多くあることに気づいた。例えばトマトの燃料タンクだったり、スクールゾーンの範囲など住民からしたら当たり前のこともかもしれないけど、外の人間からしたら新たな発見なので、このマップで町外の方にも魅力などが伝わってほしい。(仲尚樹)